



響け我ら誇りの安来節 安来市立第二中学校



修学旅行先で安来節を披露

9月20日、奈良・東大寺。「みなさん、こんにちは！」観光客がひしめく境内で元気のよい声が響きます。約300人の観光客が中門前の青い法被を着た安来二中2年生をとり囲みます。観光客の半数近くは外国人です。

おなじみの弦の音が響くと、男子生徒による「どじょうすくい男踊り」が始まりま

す。五円玉を鼻に付けた生徒たちのユーモラスな踊りに観客からおもわず笑みがこぼれます。続いて女子生徒が「どじょうすくい女踊り」を披露。ゆったりと優雅な踊りで観客を魅了します。最後は総勢26人で銭太鼓。シャンシャンと小気味よい音が響き、締めめのポーズが決まると境内は大きな拍手に包まれました。終了後は市の紹介とともに観光パンフレットを配布し、PRも行いました。横田李莉さんは「今までで一番いい演技ができました」。持田優作さんは「外国人など安来節を初めて見る人がたくさんいたけど、皆さん笑顔になっていた」と振り返ります。生徒たちの顔に充実感と喜びがあふれています。

ふるさとを愛する心を育む

安来二中が修学旅行先で安来節をPRする取り組みを始めたのは12年前から。昨年の修学旅行で踊りを披露した安部直人さん(3年)は、「安来節は言葉が通じない人も感動させるもの」と魅力を体感したといいます。

二中ではふるさと教育の一



▲9月26日、活動を近藤市長に報告。(左から安部くん、持田くん、横田さん)

環として安来節を2年生の総合学習に取り入れています。安来節保存会から講師を招き、本格的な指導を受け、ふるさとの伝統を学びます。

とくに体育祭での安来節は30年以上前からの伝統。3チームに分かれて、男踊り・女踊りを競います。二中校区の住民・生徒にとつて安来節はごく身近に親しまれています。

「郷土の誇りを持つて県外の人にPRすることは生徒たちの大きな自信になります。安来節を学ぶことで地域とつながり、ふるさとを知り、郷土を愛する心が育まれています」。二中の神田裕之校長は安来節を通して生徒たちの成長をこのように実感しています。

編集後記

安来市の人口と世帯数 H29.9.30現在

人口合計 / 39,513人
(男:18,926人 女:20,587人)
世帯数 / 14,261世帯

▼比田地区でえーひだカンパニー株式会社を取材。地域の人が地域の未来のため、従来の枠にとらわれないやり方で立ち上がりました。地区に自信と誇りを持ち、何より輝く将来を信じ、楽しく活動をしています。「なにもない」「してもムダ」、心の過疎こそが地域荒廃の始まりなのかもしれません。(山)

▼(木)は夕焼けを狙って山頂。(日)は表紙写真を狙いに再び朝の月山へ。清々しい空気の中で見晴らしは最高でした。幸盛祭は参加者・スタッフ合わせて300人以上が午前9時の山頂に居るといふ不思議な光景。そして山頂での行事は約20年ぶりのこと。地元の皆様は鹿介や富田城を愛して止みません。(の)

- 資源保護のため、この広報紙は再生紙を使用しています。
- 広報紙にあなたの写真が載りましたら、差し上げますのでご連絡ください。
- 自治会宛の発送等につきましては、地域振興課(☎23-3067)までご連絡ください。



古紙パルプ配合率70%再生紙を使用